

## 社会教育委員会 会議概要

- 1 審議会名 第6期第11回社会教育委員会
- 2 日 時 平成30年5月23日(水) 午後2時30分から午後5時15分まで
- 3 会 場 教育委員会 第1会議室
- 4 出席者 鞆山永子委員 関和幸委員 山浦美幸委員 金子昌平委員 竹花のり子委員  
早坂淳委員 【欠席委員：青木委員 宮島委員 茨木委員 山崎委員】
- 5 市側出席者 峯村教育長 中村教育次長 小林生涯学習・文化財課長  
唐澤人権同和教育政策幹 青木丸子地域教育事務所長  
宮崎真田地域教育事務所長 宮越武石地域教育事務所長  
童野中央公民館長 滝沢西部公民館長 村山城南公民館長 山口上野が丘公民館長  
酒井塩田公民館長 上原川西公民館長 清水市立図書館長 飯島上田情報ライブ  
ラリー館長 滝澤博物館長 小山生涯学習係長 内海生涯学習係主査
- 6 公開・非公開等の別 公開
- 7 傍聴者 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 30年5月25日

### 協議事項等

- 1 開 会
- 2 あいさつ(教育長、代表)
- 3 出席者自己紹介
- 4 会議事項

(1) 平成30年度 重点目標 29年度の結果と30年度の計画  
(事務局) 各所属長から今年度の計画についてそれぞれ説明  
質問・意見

(委員) 3番、4番の重点目標が昨年目標タイトルから若干修正が加えられている。

文化遺産の継承・活用が、保護・継承・活用と変わっているが、継承は保護を前提としたものとして理解したが、あえて保護を全面に出してこるところの今年度の取組みの特徴はあったら教えて欲しい。もう一点は、生涯学習の推進による地域の教育力の醸成から、学習環境の整備という言い方に変わっている。昨年度、信州型コミュニティスクールは量的にほぼほぼ拡充が終わって、今年度以降制度としては整った事業の内実の拡充が大事になってくる年なのではと思う。そう考えたときに、学習環境の整備は、発展したというよりは違った角度に変わったようなイメージがある。信州型コミュニティスクールの内実の充実が今年度の目標になるとしたら、地域の教育力の醸成が、学習環境の整備の中にどう組み込まれているか教えて欲しい。

(事務局) 基本的に保護が大前提。今までの文化財は保護と継承がメインだったが、これからは活用のほうを押していきましょうという考え。文面にも「保護」も出してきたという形で、これまでと内容としては変わっていない。

学習環境の整備は、最初は教育力の醸成で出していたが、3月の教育委員会で教育力の醸成はあまりにも大き過ぎるのではないか、わかりづらいとの指摘あり、あえて、第二次総合計画の文言に合わせて修正した。決して教育力の醸成をおろそかにしているわけではない。抽象的過ぎてわからないとのご意見があり、わかりやすい目標のタイトルとした。

(2) 少年補導委員会の組織見直しの検討について

(事務局) 資料による任務と活動についての説明(地区連の単位・大きさに選出に切り替えを提案。先の地区連役員会で諮った。縮小に見えるが他市に比べても決して手薄とはならない。現在検討段階。今日は途中経過の報告)

(委員) 地区連単位で選出とあるが、参考データを自治会の加入世帯数だけでなく、地区の子ども(児童)の数も鑑みてはいかがか。

(事務局) 子どもの数を含め柔軟に補正している。

(委員) 子どもの状況が変わって、新しくスマホ・ネット対応は大事なことだと思うが、少年補導員にこれをお願いするのはどうか。

(事務局) 最終的にはネットについてはどう賢く使うかが重要。補導委員にもその一役を担っていただきたい。補導委員になってから、ネット・スマホの研修を受け、関連情報として入れることで意識を高

めていただいている。

- (委員) 自治会から選出された補導委員が、どこまで権限があってどこまでできるのか。  
(事務局) あくまでも青少年に声を掛ける身分でしかない、強制力を持った警察官のように捕まえるとかの権限はない。危険なグループなどには介入しないようお願いしている。  
(委員) 補導委員がパトロールして回っているというだけでも違う。腕章とか名札とか…。  
(事務局) 昨年オレンジ色の帽子ベストなどを作った。最初は、補導員さんは目立たないほうがいいと言う意見があったが、今は目立った方が安心していいということでお店の人にも好評だ。  
(委員) 役員選出だが、各自治会から1人出せと言うのは決まるが、地区連から複数だと決めにくいのは。具体例は示しているのかどうか。  
(事務局) まずは地区連の皆さんのご判断にゆだねるべきと考える。次の段階として、具体的は相談があったところで、個別に提案しようと思っている。  
(委員) この件についてはこのような形で進めていいでしょうか。  
(委員) 異議なし。

### (3) 今年度事業計画について

- (事務局) 11月15日・16日ホクト文化ボールを主会場に開催される「第49回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会」へは、代表が2日間参加。そのほかに、上田市からは2・3人は動員で欲しい。  
(委員) 承知(協力の意思を示す3名の委員あり)。  
(事務局) アンケート結果をもとに視察研修を決めたい。視察先にさくら市(栃木県)があがっている。  
(委員) 市教委主催事業にボランティアとして参加する小・中・高校生を季節ごとに募集し「さくらユースボランティア」のメンバーに登録する制度について、また、募集人数いっぱいになるボランティアをどう生かしているのか聞きたい。  
(委員) 教育委員会や首長のリーダーシップでコミュニティスクールを進めている、地域の人が主体的に取り組んでいる自治体というところ、バスで行かれないところがある。別件で昨年行った上越市も改めて見てみたいが、ベストなところが今日までに見つけれなかった。  
(委員) 上田市とほぼ同じ規模の都市で、図書館や公民館等を、比較・勉強できればいいか。  
(事務局) 提言のための視察と限定するか。  
(委員) それも一つだが違っていいのでは。さくら市近郊で、もう1都市を検討したい。  
(事務局) 日程は10月31日(水)・11月1日(木)とする。  
(委員) 全会一致  
(事務局) 今年度が最終年度ということで提言をするが、最終回に教育委員との懇談を持つ。定例教育委員会の日程にあわせて行うため、日程としては12月か2月か。  
(委員) 早い方にあわせておいたほうがいい。  
(事務局) では12月19日(水)でお願いします。提言に向けた会議数は、内容が決まってからということで。  
(委員) 了解。  
(委員) 提言はA4表裏で2枚程度にまとめたい。基本的には今やっていることの評価と進めてもらいたいものを前文に入れて、必要となる取組みをいくつか入れる。入れたい事を箇条書きで書いてきてもらいたい。一人ひとりでも誰でも提言できるのが社会教育委員なので、それをまとめただけでもいい。みんな違う立場で選ばれているので考えが違うのは当たり前。そういう組織だ。  
(委員) 反映されるのか。  
(委員) 反映するかしないかは別物。教育委員会がどう受け取るか。提言してどうなるんだという人がいるが、そういうことが問題ではない。  
公民館も図書館も博物館も審議会を持っていて、住民の意見を聞き、なお社会教育委員の意見を聞き、さらに選ばれた教育委員の意見を聞くと二重にも三重にも市民の意見を聞いて進められるのが社会教育。その時の委員がどういう考えをもっているかを残しておくことが大事。社会的に今課題になっていることを社会教育委員は検証しなければならない。  
(委員) 今年は、一つではなく、本当は3つくらいあっていい。長い短いはあっても。  
(事務局) 個々に膨らまして提出いただき、ジャンルでまとめて、あとは重複する部分どうするか。  
(事務局) 日程については、次回7月26日(木)会議で、同月20日(金)提言原稿の提出締切でいいか。個人で立案するが、皆さんで意見・校正して提出したい。  
(委員) 任期は2年だから任期ごとにメンバー違うので、提言を2年に1回出すことは大事なこと。  
(委員) 教育長に出した後はどういう流れになっているのか。  
(事務局) そのまま担当課に戻ってくるので、それをもとに事業を計画していきなさいということ。  
(委員) 政策の中に生きてくるのか。  
(事務局) 前回統括コーディネーターを配置した時にも大きな後押しになった。

### (4) その他

#### 6 閉会

※ 次回の社会教育委員会 平成30年7月26日(木)午後1時30分からを予定。

